

うしみさらダボール子育て情報

「遊びは学びの宝庫」

令和7年11月19日号

板橋富士見幼稚園



遊びの中に潜む科学する心

子どもが感性豊かな大人になるためには、幼児期にたくさんの遊びの体験をすることが大切だといわれます。そのためには、多様な遊びを生み出す環境が必要とされます。そこで多様な遊びを生み出す環境の中でもっともふさわしいとされる環境が「自然環境」と言われています。

自然には、同じ形のものが一つとして存在せず、直角や平行、そして完全な丸もない世界です。その中に子どもが足を踏み入れるとき、安心感、安定感、充足感などの心持ちが生まれ、主体的で自発な行動となって現れるのです。

お団子作りを楽しむ子どもが、園庭の砂と泥を手のひらで丸めていく過程には、手の平に合う土の量・大きさ・堅さを調整し、左右の手のひらの動きでお団子を丸めていくという「習練」があります。その習練を繰り返すうちに白砂を見つけてまぶすことに気付き、やがてお団子をつるつるに磨き上げていきます。このように、経験を重ねていくことで、土の性質や特性を学び取っていくのです。

遊びを通して科学的思考を巡らせ、自己の目的を達成していく道を、体験によって切り拓く経験を重ねていくことこそ、知を育む秘訣です。遊びは、知識の源泉なのです。

しかし、どんなに豊かな環境があったとしても、そこで子どもの心持ちが開かれていなければ、遊びが知的な方向に流れていきません。実は、子どもが心置きなく自分を出し切って遊べる自然環境は、そこに介在する保育者全体の心持ちが共鳴し合っていないとはならないのです。一人でも緊張感を与える保育者がいると、その緊張感が子どもの遊びを制限することになるからです。このような空気感は、子どもにダイレクトに伝わり、落ち着きのない遊びとなって時が流れてしまいます。科学的思考【モノの成り立ちや、規則性、法則性】に繋がる遊びを楽しむためには、保育者の働きかけも、重要な鍵となるのです。

このようなことを踏まえ、板橋富士見幼稚園では保育者同士も心を通わせながら、一人ひとりの子どもの遊びを支えています。

【 秋の陽だまりの中で 】



落ち葉のお風呂を作って入ったり、花束を作ったり…

園庭の秋の自然に刺激を受けて、様々な遊びを楽しんでいます。

